

平成30年度 第1回 石巻南浜津波復興祈念公園有識者委員会の概要

【令和元年度 第1回 石巻南浜津波復興祈念公園有識者委員会 資料】

令和元年5月29日

○平成30年度 第1回 石巻南浜津波復興祈念公園有識者委員会

【開催日時】 平成30年5月10日(木) 10:00~12:00

【会場】 宮城県庁9階 第1会議室

【議事】 (1)平成29年度 第1回有識者委員会の概要について
(2)検討体制と事業スケジュール(案)について
(3)中核的施設と空間デザインの検討について
(4)宮城県における震災の記憶・教訓伝承のあり方について
(5)石巻市における震災遺構整備スケジュール(案)について
(6)市民活動拠点の概要について

○委員名簿

委員長 涌井 史郎 (東京都市大学環境学部教授)

副委員長 森山 雅幸 (宮城大学特任教授)

委員 牛尾 陽子 (公益財団法人東北活性化研究センターフェロー)

委員 岸井 隆幸 (日本大学理工学部特任教授)

ご欠席

委員 中静 透 (東北大学大学院生命科学研究科客員教授)

ご欠席

委員 舟引 敏明 (宮城大学事業構想学群教授)

委員 亀山 紘 (石巻市長)

委員 櫻井 雅之 (宮城県土木部長)

(代理 土木部次長 佐藤 達也)



第1回委員会の様子

※敬称略

○空間デザインについて

ご意見	対応状況
<p>整備に国・県・市という複数の機関がそれぞれ担当すると、その時々現場の都合で物が若干変わってしまい、それぞれの判断により若干ディテールが変わってくることもある。</p> <p>現場ですり合わせて何とかなる事と絶対だめな事が必ず出てくるので留意する必要がある、管理主体も国・県・市で別々になると、時間経過の中でそれを維持、継続できるかどうかということがポイントとなる。</p> <p>特注したデザインは、壊れた時に部材が調達できなか、調達できたとしても、極めて高いコストが必要となるので質の維持が難しいため、コストと質のバランスを考慮しつつ高い水準で維持できるかということを中心に考えておくべき。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ご意見を踏まえ、特に祈りの場周辺については、空間デザインコンセプトに合致しつつ、長期に渡り調達可能な材料や仕上げを再検討した。
<p>祈念公園の整備は多様な人が関与するため、視線や動線等の基本的なデザインコンセプトを関係者全員で共有できるような基礎資料があると良い。</p> <p>特に、工事に先立ち、デザインコンセプトとその背景を関係者全員が理解し共有しておくことが重要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 施工に入る前に、行政・施工者・設計者による三者協議や現地立会等を行い、基本計画書を用いてコンセプトや空間デザインの考え方を共有している。 施工開始後は、施工者からの確認事項に速やかに応えられるよう事業監理を行っている。
<p>国・県・市が施工費や維持管理費を負担する形になるが、資金調達のシステム化や広く国内外から集めるということが考えられないか。</p> <p>例えば、ふるさと納税を活用し祈念公園に目的を特化した資金調達方法などが検討できないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 維持管理運営段階における資金調達方法の一つとして検討を行う。
<p>来訪者の安全確保の観点から人と車の動線や水辺へのアプローチなど、植物も含めてアクセシビリティ・見え方について最後段階まで検討が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> VRを活用した事前検討に加え、施工中の段階確認等により、ディテールの検討を継続し、不具合があれば修正していく。
<p>園内シーケンスや旧門脇小学校との双方向の視線の確保など、開けるべき空間の担保と密度の高い植栽計画の関係に少し矛盾を感じる。</p> <p>基本デザインの中で、どの場所から何を見せるのか、逆に旧門脇小学校に立ったときに祈念公園の何を見せるのか、もしくは、見せないで近づいて気づきを持たせるとか、それが基本コンセプトの中にあり、将来に渡り植物が成長した後でもその空間が維持されるべき。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 空間デザインの考え方と合致するよう植栽設計の修正を行った。

○宮城県における震災の記憶・教訓伝承のあり方について

ご意見	対応状況
<p>伝承ネットワークの考えは大賛成であるが、どの施設も同じ性格になってしまい均一化されることが心配であり、そういう意味では、祈念公園は宮城県を代表するオープンエアミュージアムとすべき。</p> <p>旧門脇小学校を含めた伝承ネットワークの性格づけを県がしっかり整理し、屋内型・屋外型や、どういう悲劇が起きてどう克服してきたということが語り継がれるための位置づけを明確にすることで、何を目的にどこへ行けばよいか来訪者に発信することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 旧門脇小学校をはじめ石巻市の伝承施設や宮城県内の震災遺構等との機能分担や情報連携を行う。 岩手県や福島県の津波復興祈念公園との情報連携を行う。

○石巻市における震災遺構整備スケジュール(案)について

ご意見	対応状況
<p>それぞれの震災遺構とこの中核施設との展示の整合性とか、ストーリー性というのが非常に重要な課題と考えられ、例えば公園の中の市民活動拠点との連携をどうするかといった全体のストーリーが重要である。</p> <p>来訪者が混乱を招かず、しっかりこの地で起きた出来事を理解してお帰りいただくためのコントロールマネジメントを誰がどのように行うのかということも大きな課題である。</p> <p>宮城県の伝承のあり方も含めて、そういったところをしっかりと戦略的に練り上げていかないと、来訪者は期待外れになってしまう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 宮城県が進める中核的施設もコンテンツと石巻市が進める旧門脇小学校のコンテンツが相乗効果を発揮するよう、両方で南浜地区における震災伝承のあり方を検討し共有していく。

※本委員会資料-5参照